友愛医療センター
内科専門研修プログラム

(2027年度開始用)



社会医療法人友愛会
友愛医療センター

友愛医療センター内科専門研修プログラム

目　　次

専門研修プログラム	P1
専門研修施設群	P20
専門研修プログラム管理委員会名簿	P69
専攻医研修マニュアル	P70
指導医マニュアル	P79

社会医療法人友愛会　友愛医療センター
〒901-0224　沖縄県豊見城市字与根 50 番地 212
TEL：098-850-3811　FAX：098-850-3810
担当：診療部支援課
E-mail：senmon@yuuai.or.jp

社会医療法人友愛会 友愛医療センター内科専門研修プログラム

1・理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

本プログラムは，沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院かつ地域支援病院、災害拠点病院であり、「臨床研修病院群プロジェクト群星(むりぶし)沖縄」(以下、群星沖縄)の基幹病院でもある社会医療法人友愛会友愛医療センターを基幹施設として提供されます．沖縄県南部医療圏と、「群星沖縄」を中心としたその他沖縄県中北部(僻地、離島含む)にある連携施設・特別連携施設、さらに県外の高度医療機関と連携し、総合的な内科専門研修を目指します．本県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、subspecialty 専門研修(専門科コース)を含めた、内科専門医の育成を行います。

使命【整備基準 2】

1) 沖縄県南部医療圏に限定せず，超高齢化社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1) 本プログラムは，沖縄県南部医療圏の中心的な高度専門医療及び救急医療を担う急性期病院である友愛医療センターを基幹施設として，臨床研修病院群プロジェクト群星沖縄を中心としたその他沖縄県中北部(僻地、離島含む)にある県下の複数の連携施設・特別連携施設、県外の高度医療機関と連携し総合的な内科専門研修を行います．超高齢化社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます・研修期間は基幹施設１年以上＋連携施設・特別連携施設１

年以上の 3 年間になります.

2) 友愛医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間(または 2 年目の途中より)，立場や地域における役割の異なる医療機関(県立北部病院、県立宮古病院、公立久米島病院、友愛会豊見城中央病院、その他「群星沖縄」連携病院群、琉球大学病院、県外の高度医療機関)で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します.

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです.

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

2）内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科（Generality）の専門医

4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します・それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります.

友愛医療センター内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，沖縄県南部医療圏に限定せず，超高齢化社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域（消化器内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、リウマチ膠原病科、糖尿病・代謝内科）専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です.

2・募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～8)により，友愛医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 7 名とします.

1） 友愛医療センター内科後期研修医は現在 3 学年併せて 8 名で 1 学年 1～9 名の実績があります.

2） これまで、内科専門医試験合格、内科 subspeciality 専門医合格者も多数輩出してきた

実績もあります.

3）剖検体数は 2023 年度 2 体、2024 年度 6 体、2025 年度 3 体です.

友愛医療センター概要　（2024 年度）

開設	昭和 55 年　4 月
病床数	一般病床 388 床 （ICU 14 床・人工透析 27 床・HCU 15 床）
患者数	一日平均外来患者数 650 名 一日平均入院患者数 346 名 平均在院日数　10 日
救急外来患者数	14,747 件（一日平均 約 40.4 名）
救急車搬送	5,287 件（一日平均 14.4 件）
手術件数	6,517 件（全麻 4,632 件）
職員数	1,348 名（2026 年 4 月現在）

友愛医療センター　診療科別実績一覧（2024 年度）

友愛医療センター	入院患者 実数（人/年）	外来患者 （延人数/年）
消化器内科	1,014	17,636
循環器内科	1,227	13,348
糖尿病・内分泌内科	50	3,806
腎臓内科	282	8,831
呼吸器内科	743	6,104
リウマチ膠原病科	68	5,694
神経･血液･感染症	232	0
救急科	1,318	14,747

※入院患者数は、DPC 主病名のみをリストアップし、「研修手帳」の病名分類を参考にし、算出しています.（合併症は含まれていません）

・神経内科、血液内科、感染症、以外の領域では複数名の専門医が常勤しています.

・血液疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ますし、非常勤の血液内科専門医の指導を受けられます. 膠原病内科関連の血液障害（TTP 等）や敗血症性 DIC は経験します. 血液内科のある連携施設での研修も組まれています.

・神経内科疾患は、救急病院であるので急性期脳血管障害は十分な症例を経験することが可能です．非常勤の神経内科専門医の指導を受けることも可能です．また、神経専門病院である連携施設での研修も組まれています.

4）特に腎臓内科、リウマチ・膠原病科、循環器内科、内分泌内科は県下でも多くの症例数をほこっています．現在専門医欠員の血液内科，神経内科、感染症内科の研修は、連携病院で十分研修が可能です(ハートライフ病院:血液内科、沖縄病院: 神経内科、中頭病院:感染症内科)．一般内科としての脳血管障害、呼吸器感染症は当院でも十分研修可能で症例も多いです.

5）**13 領域**の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（**P.20**「友愛医療センター内科専門研修施設群」参照）.

6）1 学年 10 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群，80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

7）専攻医 3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には，地域基幹病院 **21 施設**、琉球大学病院および離島・僻地での地域医療密着型病院 3 施設，療養型・緩和医療・地域型病院計 1 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.

8）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です.

3・専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲（分野）は,「総合内科」,「消化器」,「循環器」,「内分泌」,「代謝」,「腎臓」,「呼吸器」,「血液」,「神経」,「アレルギー」,「膠原病および類縁疾患」,「感染症」,ならびに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」,「病態生理」,「身体診察」,「専門的検査」,「治療」,「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2）専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します・さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4・専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P.82 内科専門研修　修了要件「疾患群」、「症例数」、「病歴要約」一覧表　参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします.

内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）1 年:

・症例 :「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します・以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.

・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します.

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）2 年:

・症例 :「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，80 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します.

・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します.

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います. 専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）3 年:

・症例 : 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします. 修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します.

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます・査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います. 専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします．J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

友愛医療センター内科施設群専門研修では,「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1 年以上＋連携・特別連携施設年 1 以上）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を**延長**します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2）臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

② 定期的（毎週 3 回）に開催する各診療科あるいは内科症例検討会、ER カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます・また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.

③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます.
④ 救急部で内科領域の救急診療の経験を積みます.
⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます.
⑥ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します.

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応，2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，5）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します.

①定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会、勉強会、症例検討会
（P.83 友愛医療センター内科専門研修週間スケジュール参照）
②医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
※内科専攻医は年に 2 回以上受講します.
③関連診療科とのカンファレンス（基幹施設）
ER カンファレンス（月 1 回開催）、ICU 勉強会（年 1～2 回）、
CPC（2025 年度実績 3 回）、キャンサーボード（年 5～6 回）
④研修施設群合同カンファレンス（2025 年度実績 1 回）
⑤地域参加型のカンファレンス（基幹施設：内科各科講演会，救急症例カンファレンス，各研究会，各科症例検討会）
⑦ JMECC 受講（基幹施設：2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します.
⑦内科系学術集会（下記「７・学術活動に関する研修計画」参照）
⑧各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類， 技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，また は判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに， 症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています.（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

①内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

②日本内科学会雑誌にある MCQ

③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

友愛医療センター 院内自己学習環境

・職員専用図書室（24 時間利用可能）

・当院に所蔵の無い文献は、他施設から取り寄せ可能

・院内 HP にて、新刊雑誌・図書の確認や蔵書検索が可能

・文献検索データベース（医中誌 Web、MEDLINE Ultimate）

・臨床医学情報ツール（UpToDateAnywhere、ClinicalKey、今日の診療、メディカルオンライン）

・電子ジャーナル（Journals@Ovid、Journals Consult、医書.jp オールアクセス）

・電子ブック（メディカルオンラインイーブックスライブラリー）

・職員向け院内 Wi-Fi 完備

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.

・専攻医による逆評価を入力して記録します.

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5・プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

友愛医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（**P.20**「友愛医療センター内科専門研修施設群」参照）.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である友愛医療センター診療部支援課が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6・リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら

深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．

友愛医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

①患者から学ぶという姿勢を基本とする．

②科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM; evidence based medicine）．

③最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．

④診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う．

⑤症例報告を通じて深い洞察力を磨く．

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．

併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う．

② 後輩専攻医の指導を行う(屋根瓦方式にて)．

③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います．

7・学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

友愛医療センター内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，

①内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）．

※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．

④ 内科学に通じる基礎研究を行います．

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います．

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，友愛医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します．

8・コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です．

友愛医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます．

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である友愛医療センター診療部支援課が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9・地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．友愛医療センター内科専門研修施設群研修施設は沖縄県内(本島および離島)複数および県外の医療機関から構成されています.

友愛医療センターは，沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，当院と同様な臨床研修病院群「群星沖縄」の地域基幹病院である浦添総合病院、中頭病院、ハートライフ病院、沖縄協同病院、大浜第一病院、また、独立行政法人国立病院機構沖縄病院、琉球大学病院、那覇市立病院、及び僻地中核病院である県立北部病院、離島の県立宮古病院、公立久米島病院、および地域医療密着型病院・緩和病棟のある友愛会豊見城中央病院、健診事業（クリニック機能）を行う豊見城中央病院附属健康管理センターで構成しています．さらに県外の医療機関は聖マリアンナ医科大学付属病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、飯塚病院、倉敷中央病院、済生会熊本病院、多摩南部地域病院、長崎大学病院、佐賀大学医学部附属病院、佐世保市総合医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、北野病院、熊本大学病院、ベルランド総合

病院、とも連携しています。

地域基幹病院では，友愛医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．当院にない専門科での研修(感染症科、神経内科、血液内科)また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，離島・僻地など地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

友愛医療センター内科専門研修施設群(**P.20**)は，沖縄県南部医療圏，近隣医療圏および県下の医療機関さらに県外の医療機関から構成しています．県内で最も距離が離れている県立北部病院、離島の公立久米島病院、県立宮古病院は僻地、離島であるが、滞在型の派遣を考えています．離島の特別連携施設である公立久米島病院においては、友愛医療センターの指導医より電話、メール等で日常的に指導・監督できることは勿論であるが、さらに月 1 日程度の友愛医療センターより内科指導医が派遣されていて、直接的な指導やコンサルテーションも可能となっています．療養型病院である友愛会豊見城中央病院の研修は、豊見城中央病院の研修委員会と協同して、友愛医療センターのプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行います．友愛医療センターの担当指導医が，豊見城中央病院の指導医とともに，専攻医の研修指導にあたり，指導の質を保ちます．

10・地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

友愛医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています．

友愛医療センター内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

友愛医療センター 内科専門研修プログラム

■総合内科基本コース　例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	呼吸器内科			循環器内科			DM内科			腎臓内科		
2年目	地域研修						消化器内科			リウマチ・膠原病内科		
3年目	院外研修						院内研修					

- 初期研修の経験症例を鑑み、修了要件を満たせるように、ローテーションする。
- OJT として当直、新患・再来外来も経験する。
- JMECC 受講必須
- 通算で 1 年間は連携施設・特別連携施設での研修は必須

■サブスペシャリティ重点コース　例（消化器内科重点コース 1 年型　例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	消化器内科						腎臓内科		リウマチ・膠原病内科		循環器内科	
2年目	呼吸器内科			DM内科			地域研修					
3年目	院外研修						消化器内科					

- サブスペシャリティを重点的に研修するが修了要件を満たすために、
  内科各科もローテーションする。
- サブスペシャリティの開始・修了・継続性は問わない
- サブスペシャリティ重点コースは、1 年型、2 年型がある。
  ※2 年型は、経験症例登録状況によっては選択できない場合もある。
- OJT として当直、新患・再来外来も経験する。
- JMECC 受講必須
- 通算で 1 年間は連携施設・特別連携施設での研修は必須

《連携施設・特別連携施設》

中頭病院、浦添総合病院、沖縄協同病院、琉球大学病院、ハートライフ病院、沖縄病院、大浜第一病院、那覇市立病院、豊見城中央病院、豊見城中央病院附属健康管理センター、聖マリアンナ医科大学付属病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、倉敷中央病院、飯塚病院、済生会熊本病院、多摩南部地域病院、佐賀大学医学部附属病院、長崎大学病院、佐世保市総合医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、北野病院、熊本大学病院、ベルランド総合病院、
地域研修等：県立北部病院、県立宮古病院、久米島病院

※その他、専攻医の希望・将来像・研修達成度により自由度の高い研修ローテーションも相談の上考慮します。

12・専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 友愛医療センター診療部支援課の役割

・友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行います.

・友愛医療センター内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.

・診療科ローテーションごと(1～4 ヶ月)に J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し, 専攻医による病歴要約の作成を促します. また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・年に 2 回, 専攻医自身の自己評価を行います. その結果は J-OSLER を通じて集計され, 1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って, 改善を促します.

・診療部支援課は，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年２回行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，診療部支援課もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 2 名から 5 名までの複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません). その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます.

・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・専攻医は，1 年目専門研修修了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，40 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修修了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修

修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，120 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します．

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や診療部支援課からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を経験できるよう可能な範囲で，主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います．

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLER に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します．

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録します．(P96 別表 1「友愛医療センター 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照)．

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii)所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv)JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi)J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」,「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLER を用います.

なお,「友愛医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（**P.70**）と「友愛医療センター内科指導医マニュアル」【整備基準 45】（**P.93**）と別に示します.

13・専門研修の管理、運営計画【整備基準 34,35,37～39】

1）友愛医療センター専門研修管理委員会（＝専門研修プログラム連絡協議会）

友愛医療センターは複数の基本領域専門研修プログラムを擁しているため、当該施設長、各診療科専門研修プログラム統括責任者からなる専門研修管理委員会を設置する.

2）友愛医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

（**P.69**「友愛医療センター内科専門研修プログラム管理員会」参照）

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.

内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（**P.69** 友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照）．友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を，友愛医療センター診療部支援課におきます.

ii）友愛医療センター内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，年 1 回開催する友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに毎年，友愛医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

①前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)１か月あたり内科外来患者数，

e)1 ヶ月あたり内科入院患者数，f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，

c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③前年度の学術活動

a)学会発表，b)論文発表

④施設状況

a)施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催.

⑤Subspecialty 領域の専門医・指導医数

日本内科学会総合内科専門医 19 名

日本消化器病学会消化器指導医 3 名・専門医 5 名

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 2 名、専門医 6 名

日本肝臓学会専門医 2 名

日本循環器学会循環器専門医 10 名

日本糖尿病学会指導医 1 名・専門医 4 名

日本腎臓学会指導医 3 名・専門医 6 名、

日本透析医学会指導医 3 名、専門医 6 名

日本呼吸器学会呼吸器指導医 3 名・専門医 3 名

日本アレルギー学会（内科）指導医 1 名、専門医 2 名

日本リウマチ学会指導医 1 名・専門医 2 名

日本内分泌会内分泌代謝(内科)専門医 4 名

日本救急医学会救急科専門医 3 名

3）友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の役割

・プログラム作成と改善
・CPC、JMECC 等の開催
・適切な評価の保証
・プログラム修了判定
・各施設の研修委員会への指導権限を有し、同委員会における各専攻医の進達状況の把握、問題点の抽出、解決、および各指導医への助言や指導の最終責任を負う.

4）プログラム統括責任者の役割と権限

・プログラム管理委員会を主宰して、その作成と改善に責任を持つ.
・各施設の研修委員会を統括する.
・専攻医の採用、修了認定を行う.
・指導医の管理と支援を行う.

14・プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します.
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.

指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

15・専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専攻医の心身の健康維持への環境整備も研修委員会の責務であると考えます.

専攻医基幹施設である友愛医療センターの就業環境，もしくは連携施設、特別連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.20「友愛医療センター内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である友愛医療センターの整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.

・友愛医療センター常勤医師(専攻医)として労務環境が保障されています.

・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課保健師、心理相談室）があります.

・ハラスメント委員会が整備されています.

・女性専攻医が安心して勤務できるように，女性専用の休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています.

・敷地外(車で 10 分)に事業所内保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.20「友愛医療センター内科専門研修施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16・内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，友愛医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項

② 年度内に改善を要する事項

③　数年をかけて改善を要する事項

④　内科領域全体で改善を要する事項

⑤　特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医，施設の内科研修委員会，友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，友愛医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して友愛医療センター内科専門研修プログラムを評価します.

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます. 状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

友愛医療センター診療部支援課と友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，友愛医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて友愛医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います.

友愛医療センター内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17・専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

プログラムへの応募者は，友愛医療センター診療部支援課 website の友愛医療センター専門研修募集要項に従って応募します．書類選考および面接を行い，友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定します。

(問い合わせ先)友愛医療センター　診療部支援課

Tel:098-850-3811(内線 1370)

E-mail: senmon@yuuai.or.jp

HP: https://ymc.yuuai.or.jp/

友愛医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は, 遅滞なく J-OSLER にて登録を行います.

18・内科専門研修の休止・中断，プログラム異動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの異動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて友愛医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞

なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と異動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから友愛医療センター内科専門研修プログラムへの異動の場合も同様です．

他の領域から友愛医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに友愛医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

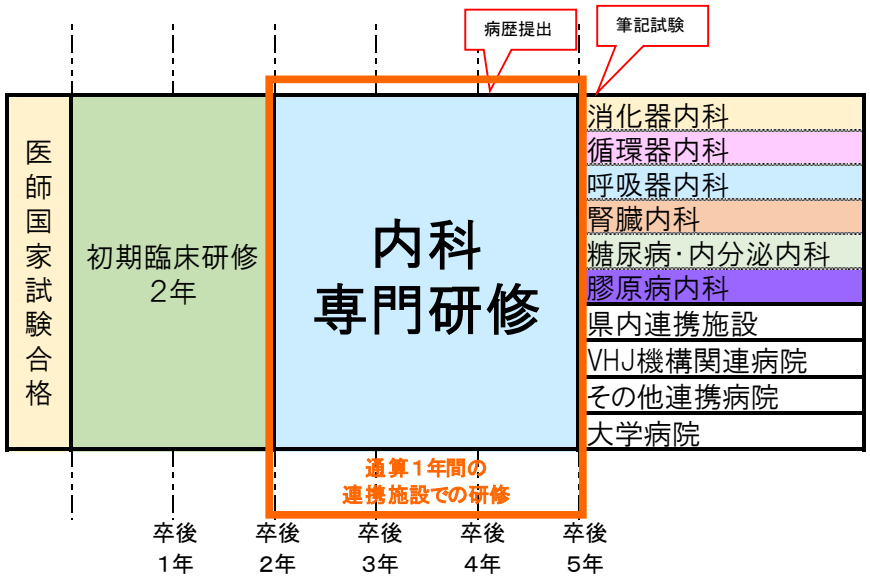
疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム修了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．

留学期間は，原則として研修期間として認めません．

友愛医療センター内科専門研修施設群

研修期間：3 年間（基幹施設 1 年以上＋連携・特別連携施設 1 年以上）

図 1 ・友愛医療センター内科専門研修プログラム（概念図）



友愛医療センター内科専門研修施設群研修施設

	所在県	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹	沖縄	友愛医療センター	388	192	9	23	19	3
連携	沖縄	ハートライフ病院	308	142	5	9	5	3
連携	沖縄	沖縄病院	300	265	3	6	8	0
連携	沖縄	沖縄協同病院	280	120	6	5	5	11
連携	沖縄	中頭病院	355	174	9	21	24	4
連携	沖縄	浦添総合病院	334	160	6	15	9	2
連携	沖縄	琉球大学病院	620	121	3	21	21	9
連携	沖縄	県立北部病院	327	142	4	6	5	2
特別	沖縄	久米島病院	40	40	5	1	1	0
連携	沖縄	豊見城中央病院	268	122	6	5	5	0
特別	沖縄	豊見城中央病院附属健康管理ｾﾝﾀｰ	0	0	2	0	0	0
連携	沖縄	県立宮古病院	277	90	6	5	5	1
連携	沖縄	大浜第一病院	217	76	7	6	4	2
連携	沖縄	那覇市立病院	470	181	10	17	19	9

連携	岡山	倉敷中央病院	1172	445	10	73	54	12
連携	愛知	日本赤十字社愛知医療ｾﾝﾀｰ名古屋第二病院	801	299	8	20	30	7
連携	神奈川	聖マリアンナ医科大学病院	955	378	9	105	89	20
連携	福岡	飯塚病院	1006	561	18	13	47	8
連携	熊本	済生会熊本病院	400	142	8	45	45	0
連携	東京	多摩南部地域病院	287	110	5	13	9	4
連携	長崎	長崎大学病院	776	244	8	101	91	9
連携	佐賀	佐賀大学医学部附属病院	602	210	9	42	51	19
連携	長崎	佐世保市総合医療ｾﾝﾀｰ	563	300	12	18	16	2
連携	兵庫	兵庫県立はりま姫路総合医療センター	736	306	11	46	38	9
連携	大阪	北野病院	685	305	9	13	23	7
連携	熊本	熊本大学病院	845	241	8	83	70	8
連係	大阪	ﾍﾞﾙﾗﾝﾄﾞ総合病院	477	204	5	16	10	5

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
友愛医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
ハートライフ病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○
沖縄病院	○	○	△	△	△	×	○	×	○	○	△	○	×
沖縄協同病院	○	○	○	△	×	△	○	△	×	△	△	○	○
中頭病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○
浦添総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
琉球大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
県立北部病院	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○	○
久米島病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○
豊見城中央病院	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○
豊見城中央病院附属健康管理ｾﾝﾀｰ	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
県立宮古病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○

大浜第一病院	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	△	×	○
那覇市立病院													
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本赤十字社愛知医療ｾﾝﾀｰ名古屋第二病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
済生会熊本病院	○	○	○	×	△	○	○	△	○	○	△	○	○
多摩南部地域病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○
長崎大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐世保市総合医療センター	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立はりま姫路総合医療ｾﾝﾀｰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熊本大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
ﾍﾞﾙﾗﾝﾄﾞ総合病院	○	○	○	△	○	△	○	×	○	△	×	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○，△，×)に評価しました．〈○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．友愛医療センター内科専門研修施設群研修施設は沖縄県下の本島および離島だけでなく、全国の主要都市にある複数医療機関から構成されています．

友愛医療センターは，沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できる

ことを目的に，沖縄県内の地域基幹病院である浦添総合病院、中頭病院、ハートライフ病院、沖縄協同病院、大浜第一病院、沖縄病院、琉球大学病院、那覇市立病院、僻地中核病院である県立北部病院、離島の公立久米島病院、県立宮古病院および地域医療密着型病院・緩和病棟のある友愛会豊見城中央病院、健診事業（クリニック機能）を行う豊見城中央病院附属健康管理センターで構成しています．また日本全国の中から各地域の中核病院としての役割を果たしている、聖マリアンナ医科大学付院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、倉敷中央病院、飯塚病院、済生会熊本病院、多摩南部地域病院、長崎大学病院、佐賀大学医学部附属病院、佐世保市総合医療センター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、北野病院、熊本大学病院、ベルランド総合病院を連携施設として、多彩なキャリアパスに対応しています。

地域基幹病院では，友愛医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．当院にない専門科での研修(感染症科、神経内科、血液内科)また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，離島・僻地など地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

・計画的に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します.

・3 年間のうち原則 1 年間は連携施設・特別連携施設で研修をします（図 1）．連携施設へは 6 ヶ月、特別連携施設へは 3 ヶ月を基準として調整しています。

なお，研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個々人により異なります）.

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

沖縄県外の連携施設では東京方面で空路で約３時間、名古屋方面で空路で２時間半、岡山方面で空路で２時間、九州方面で空路で２時間ですが、沖縄県以外の研修施設を加えることにより、研修の幅をもたせ、研修の標準化、研修後のキャリア形成に役立つと考えています。

特別連携施設では、公立久米島病院は那覇から空路で約 1 時間です。

1）専門研修基幹施設

社会医療法人友愛会 友愛医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会)があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・事業所内保育所があり利用可能です(友愛医療センターより車で 10 分). ・女性医師が安心して勤務できるように、女性休憩室、女性更衣室、女性専用シャワー室、当直室、を設置しています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・J-OSLER 指導医は 23 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と診療部支援課を設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス(2025 年度実績 1 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（救急症例検討会(不定期)、地域医療連携講演会(不定期)、他)を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に診療部支援課が対応します. ・特別連携施設（久米島病院）の専門研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門医の常勤がいない血液疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ますが、不十分な症例については連携施設で経験することが出来ますし、血液内科非常勤専門医の指導を受けることが可能です. ・神経内科医の常勤医はいませんが、救急病院ですので脳血管障害は十分経験することが出来ますし外来診療の神経内科非常勤専門医の指導を受けることが可能です. また、連携施設で経験することも出来ます. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 3 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています. ・臨床研究支援センターを設置し、定期的に治験審査委員会(月 1 回)を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 7 演題）をしています.
指導責任者	佐藤陽子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院はサブスペが充実しているだけでなく、内科一般の診療も皆ができるような仕組みづくりをしています。他科との垣根も低くコンサルトも

	しやすい環境にあり、多職種連携も積極的に行っています。医師は責任が重い仕事かつその分やりがいのある職だと思いますが、一人では何もできません。常に感謝の気持ちを忘れることなくチーム医療のできる人を目指していければと考えています。県内外の関連病院も多いので一度県外で仕事をしてみたいなどのご要望にもお応えできます。 是非一緒に当院で内科専門研修をしませんか？
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 19 名、 日本消化器病学会消化器指導医 3 名・専門医 5 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 2 名、専門医 6 名、 日本肝臓学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名・専門医 4 名、 日本腎臓学会指導医 3 名・専門医 6 名、 日本透析医学会指導医 3 名、専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 3 名・専門医 3 名、 日本アレルギー学会（内科）指導医 1 名、専門医 2 名 日本リウマチ学会指導医 1 名・専門医 2 名、 日本内分泌会内分泌代謝(内科)専門医 4 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 188,673 名（1 ヶ月平均 15,719 名） 入院患者 129,692 名（1 ヶ月平均 10,807 名）
経験できる疾患群	当院は都市型第一線の急性期病院であり、きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．血液疾患、一部の神経疾患、感染症分野は連携病院での研修で十分履修可能です．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携、緩和医療、療養型医療、離島・僻地の医療なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本リウマチ学会　教育施設 日本透析医学専門医制度認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 腹膜透析教育研修医療機関 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本循環器学会認定左心耳閉鎖システム実施施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設（関連施設） 日本胆道学会認定指導医制度指導認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 呼吸器内科領域専門研修制度　認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度　関連認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 1

２）専門研修連携施設

1. 社会医療法人かりゆし会　ハートライフ病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（衛生委員会および産業医）があります。 ・ハラスメント委員会（セクシャルハラスメントパワーハラスメント等）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女性専用の更衣室（休憩室)、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に法人運営の保育施設があります。また、隣接する同法人クリニック内にある院内保育所で病児保育も可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 9 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2025 年度実績：4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績：救急症例検討会 4 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では，症例指導医とハートライフ病院の担当指導医が連携し研修指導を行います．なお，研修期間中はハートライフ病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門医の常勤がいない内分泌、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ます。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2025 年度実績：3 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・ 日本内科学会学術総会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績：3 回）をしています。また、専攻医が国内・国外の学会に参加、発表する機会があります。
指導責任者	氏名：秋元　芳典 【内科専攻医へのメッセージ】 ハートライフ病院は 308 床の急性期病院であり、幅広い内科疾患を経験す

	ることができます。中でも消化器、循環器疾患については症例数、指導医ともに充実しています。消化器領域では肝臓領域の患者数が多く、肝がんの症例に対するラジオ波焼灼療法などは沖縄でも多くの症例を行っています。循環器では ECMO を含め、救急と共に急性期症例の経験をすることができます。また、2025 年度より総合診療専門研修プログラムを立ち上げ、総合内科を中心に内科を幅広く学ぶ教育にも力を入れています。内科の基礎から応用まで研修できるシステムで先生方を迎えたいと考えています。
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 7 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 2,600 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 3,519 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	2 次救急指定病院としての急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、地域医療支援病院としての病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本臨床栄養代謝学会ＮＳＴ稼働施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本アレルギー学会専門医準教育研修施設

2. 独立行政法人国立病院機構沖縄病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・日本内科学会指定教育関連病院です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・国立病院機構職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス、各種ハラスメントに適切に対処する部署(管理課)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、定員に空きがあれば利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログ	・指導医が 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、専攻医の研修内容を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

ラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、神経、呼吸器、総合内科(緩和医療科)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。研修期間が十分であれば膠原病、感染症及びアレルギーの分野でも症例を担当することができます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会・呼吸器学会　総会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	氏名：藤原　善寿 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構は日本最大のネットワークを活かし、数々の臨床研究を推進しています。内科研修に関しては 6 つの県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて活動を行っています。政策医療を担う当院は密度の高い診療を必要とする神経難病や結核診療の研修を提供可能であり、他の救急・総合診療を広く行う協力病院と連携することで幅広い診療に対応可能な内科医育成に貢献可能です。
資格取得者数 （常勤医）	・日本内科学会指導医　6 名 ・日本内科学会総合内科専門医　8 名 ・日本消化器病学会消化器専門医　1 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医　8 名 ・日本神経学会神経内科専門医　7 名 ・日本アレルギー学会専門医(内科)　1 名 ・日本感染症学会専門医　2 名
外来・入院患者数	外来患者 1,910 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 189 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	神経内科領域では充分な研修期間があれば他院では経験できない稀な疾患を経験できる可能性が高いです. 結核病棟もあり、抗酸菌診療の研修も可能です.
経験できる技術･技能	・神経内科領域では充分な研修期間があれば他院では経験できない稀な疾患を経験できる可能性が高いです。結核病棟もあり、抗酸菌診療の研修も可能です。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診連携なども経験できます。緩和医療科への紹介も多く全人的医療が経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定教育関連施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本感染症学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ・日本がん治療認定機構研修施設 ・日本神経学会認定施設 ・日本放射線学会専門医修練協力機関 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本病理学会研修登録施設

3.　沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院

認定基準 【整備基準 24】	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

1)専攻医の環境	·沖縄医療生活協同組合常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（心療内科）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 · 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩・仮眠室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 · 沖縄医療生活協同組合の保育所が病院近隣にあり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科指導医が 5 名（下記）、総合内科専門医が 5 名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理·医療安全·感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、 専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 3 体、2024 年度 12 体、2025 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。 ·内科学会総会あるいは同地方会に学会発表をしています(2023 年度 5 回、2024 年度 2 回、2025 年度 2 回）。
指導責任者	氏名：山内昌喜 【内科専攻医へのメッセージ】 病棟診療は総合内科と循環器内科、呼吸器内科、感染症内科、消化器内科、急性血液浄化療法科のグループとで分担しながら担当をしています。適宜疾患グループ間のローテーションを組み経験の幅を広げます。外来診療は紹介を受け受診される患者さんを中心に、退院後や定期的に外来観察を行う予約外来とを担当していただき、急性期疾患の初療や慢性疾患の導入なども経験していただく予定です。また、サブスペシャル領域の志望科が入職時点で決定している場合は、該当科を中心に専門研修を進めていくことが可能であり、専攻医の希望に合わせたカリキュラムを作成することができます。
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本救急医学会救急専門医 5 名。
外来・入院患者数	外来患者２０，７３９名（1 ヶ月平均 1,728 名） 入院患者５，００６名（1 ヶ月平均 417 名）
経験できる疾患群	頻度の少ない疾患も含めると 70 領域、67 疾患群程度の症例を診療する機会があります。白血病やリンパ腫といった血液疾患、膠原病、特殊な変性性神経筋疾患、内分泌疾患は症例が少ないです。
経験できる技術・	頻度の少ない疾患も含めると 70 領域、67 疾患群程度の症例を診療する

技能	機会があります。白血病やリンパ腫といった血液疾患、膠原病、特殊な変性性神経筋疾患、内分泌疾患は症例が少ないです。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。希望により消化管内視鏡、エコー検査を集中的に学ぶ機会を設けます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　など

4.　社会医療法人敬愛会 中頭病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　メンタルストレスに適切に対処する部署があります。（健康サポートセンター） ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 21 名在籍しています（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 1 回） ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：･NC（中頭病院と地域のクリニック）連携セミナー、消防合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（基幹施設：　2024 年度実績 1 回：受講者 5 名） ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育開発研修センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、定期的に電話やインターネットでの面談 ・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・　カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。

【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に開催しています。 ．日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を目標にしています。（2025 年度実績 6 演題）
指導責任者	新里　敬 【内科専攻医へのメッセージ】 中頭病院は、中部医療圏の中心的な急性期病院であり、沖縄県全医療圏、県外（東京都、茨城県、大阪府、京都府、福岡県）の 15 医療機関と連携施設、特別連携施設を組んでいます。 特徴としては、都市部、その近郊、へき地、離島を網羅しており、地域の実情に合わせた多様な研修を積むことが可能です。 主担当医として、外来、入院から退院まで、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を学び経験し、専門内科医への成長に繋がる研修ができるもと確信しております。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 21 名 、総合内科専門医 24 名、内科専門医 9 名、 呼吸器専門医 6 名、循環器専門医 3 名、消化器専門医 11 名、 消化器内視鏡専門医 9 名、腎臓病学会専門医 5 名、透析専門医 4 名、 血液専門医 3 名、糖尿病学会専門医 2 名、内分泌学会専門医 1 名、 神経内科専門医 1 名、感染症専門医 3 名、肝臓専門医 5 名 集中治療専門医 2 名、救急科専門医 9 名
外来・入院患者数	内科　延べ外来患者数 15,595 名/月 内科　延べ入院患者数　5,267 名/月
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会内科専門研修基幹施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本感染症学会研修施設 日本透析医学会認定施設 救急科専門研修連携施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本集中治療医学会専門研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床栄養代謝学会　NST 稼働施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本肺癌学会認定施設

5. 社会医療法人仁愛会 浦添総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（職員サポートセンター）があります. ·ハラスメントに関する委員会については，人事審査委員会が整備されています。 ·事業所内保育所があり，利用可能です. （浦添総合病院より徒歩５分） ·女性医師が安心して勤務できるように，女性更衣室，女性専用シャワー室，当直室，を設置しています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·日本内科学会指導医は 15 名在籍しています（下記指導医数参照）. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研究室を設置しています. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス[救急症例検討会(隔月)，地域医療連携講演会(不定期)，他]を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研究室が対応します. ·特別連携施設の専門研修では，電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 4/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·臨床倫理委員会を設置し，開催しています. ·臨床研究支援センターを設置し，定期的に治験審査委員会(月 1 回)を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	仲吉 朝邦 【内科専攻医へのメッセージ】 浦添総合病院のある浦添市は，“沖縄の空の玄関口”那覇空港から北へ約 25 分に位置しており，研修生活に最適な環境（住宅・交通の便）が整っております. 近隣に立地する群星（むりぶし）沖縄臨床研修センター主催の講演会（定期的に国内外の有名講師を招聘）や近隣ホテルで開催される講演会への参加など，良い研修に必要不可欠な情報へのアクセスも抜群です. もちろん，院内での研修内容も充実しております. 当院は浦添市・那覇市・宜野湾市を中心に地域の中核病院としての役割を担っているため，

	多くの症例を経験でき，初期研修で学んだ内科専門知識を深めることはもとより，内科専攻医に必要な 13 領域 70 疾患群の症例を十分に経験できるものとなっております. また，当プログラムの大きな特長は豊富な急性期疾患を経験できるということです．沖縄県内３つの救命救急センターのうちの１つを有し，トップクラスの救急車搬送患者数を誇ります．病院前診療にも力を入れており，沖縄県の補助事業であるドクターヘリや消防本部からの要請で現場へ駆けつけるドクターカー研修も可能です. 一方，連携施設では，離島研修や高齢者医療，在宅医療を経験できる体制を整えております．これらをバランス良く経験することで，今後の内科医としての礎を築くことにつながるでしょう．専攻医の皆さんが“主役”です．“主役”にとって良い研修が何なのかを常に考え，実践することを私たちはお約束します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会指導医 2 名，専門医 6 名 日本肝臓学会指導医 1 名，専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名，専門医 6 名 日本循環器学会専門医 6 名， 日本糖尿病学会指導医 2 名，専門医 2 名 日本腎臓病学会指導医 1 名，専門医 2 名 日本呼吸器学会指導医 1 名，専門医 1 名 日本感染症学会専門医 2 名， 日本透析医学会指導医 2 名，専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 14 名，ほか
外来・入院患者数	総外来患者数（実数）：89,039 名 総入院患者数（実数）：13,601 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．一部の領域（血液，膠原病分野）は連携病院での研修で十分履修可能です.
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管鏡専門医制度関連施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会･日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設

6. 琉球大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 労働基準法を順守し、琉球大学の「※専攻医就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は産業医とカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 21 名在籍しています（下記)。 ・朝カンファレンス・チーム回診 朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。 ・総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。 ・症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。 ・診療手技セミナー： 例：シミュレーションセンターにおいて、各種シミュレータを用いたスキルトレーニング。または実際の機器を用いて診療スキルの実践的なトレーニング等を行います。 ・ＣＰＣ：死亡･剖検例、難病･稀少症例についての病理診断を検討します。 ・関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。 ・抄読会・研究報告会：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し､意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。 ・Summary discussion：指導医と discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。 ・学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します。後輩を指導することは自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①内科領域の救急、②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のモーニングセミナーやイブニングセミナーが開催されており、それを聴講し、学習します。受講歴は登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC（内科救急講習会）等においても学習します。
指導責任者	崎間洋邦
資格取得者数 （常勤医）	認定内科医 28 名、総合内科専門医 21 名、消化器病学会 5 名、肝臓学会 2 名、循環器学会 2 名、内分泌学会 2 名、腎臓学会 2 名、糖尿病学会 2 名、呼吸器学会 9 名、血液学会 2 名、神経学会 4 名、アレルギー学会 2 名、

	リウマチ学会 1 名、感染症学会 4 名、老年医学会 0 名、救急医学会 0 名
外来・入院患者数	外来患者　1,130.1 名（1 日平均）、入院患者　466.9 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある救急をのぞく 12 領域、66 疾患群の症例を経験することができます。琉球大学病院では３診療科（第一内科、第二内科、第三内科）が複数領域を担当しています。
経験できる技術･技能	基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することができます。
経験できる地域医療・診療連携	原則として、琉球大学病院の３診療科（第一内科、第二内科、第三内科）をそれぞれ 4 ヶ月ずつ、そして地域医療の経験や症例数が充足していない領域などを連携施設で研修します。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本高血圧学会専門医制度に基づく研修施設 I 日本神経学会専門医制度における教育施設 経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育施設

7.　沖縄県立北部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています。月額 1 万５,000 円程度 1 LDK ・沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は４名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、 代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な病例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年会で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。 ・2024 年度実績 2 演題

指導責任者	星野　慎一 【内科専攻医へのメッセージ】 ・当院は沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1－3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることがいずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診れる力をつけたい方にとってはうってつけの病院です。
資格取得者数 （常勤医）	・日本内科学会総合内科専門医　５名 ・日本循環器専門門医　１名
外来・入院患者数	・外来患者（2,469）入院患者（224 名） ともに１ヶ月平均（内科のみの人数）
経験できる疾患群	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の病例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の病例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設

8.　沖縄県立宮古病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・沖縄県立宮古病院任期付常勤医師として労務環境が保障されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。 ・　内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域　13　分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、膠原病、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、代謝、腎臓、アレルギー、感染症、血液の分野においては時々症例を診療することができます。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	氏名：藍原　和史 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、人口約 5 万 5 千人を擁する離島の中核病院です。内科研修病院として、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層・疾患の症例を経験できます。とりわけ、当院は島内で唯一の 24 時間体制による全次対応型救急病院であり、あらゆる初期対応を担っていることから、特定の疾患に偏らない多様な救急・緊急症例を豊富に経験できる点が大きな特徴です。離島医療を通じて、医師としての社会的責任や地域医療の本質を実感できる、意義ある研修環境が整っています。
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名　、日本内科学会総合内科専門医 5 名
外来・入院患者数	外来患者 1,899 名、入院患者 283 名 ※ともに 1 ヶ月平均(実日数)※内科(総合診療科含)のみ記載
経験できる疾患群	・13 領域のうち、13 領域 68 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本プライマリ・ケア学会基幹施設 日本専門医機構総合診療科基幹施設 日本消化器病学会専門医関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設

9. 大浜第一病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期研修制度基幹型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要なインターネット環境が整っています。 ・こころと体のヘルスケアセンターがあり、メンタルヘルス対策を取っています。 ・職員が利用できる、図書室が完備されています。 ・女性専攻医が安心して業務に取り組めるよう、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が完備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が３名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療安全 2 回開催、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 243/31】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、及び救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診察して

3) 診療経験の環境	います。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会或いは 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	氏名：大城　康一 【内科専攻医へのメッセージ】 大浜第一病院は 217 床の急性期病院で、幅広い内科疾患を経験することができます。循環器内科では、急性心筋梗塞や不整脈、血管疾患など循環器救急疾患を多く手掛けています。消化器内科では、早期がんに対する内視鏡的粘膜切除法や内視鏡的逆行性短観膵管造影などの特殊内視鏡も行っております。その他、緊急を含めた消化器官内視鏡症例や循環器領域の急性期虚血性疾患の症例数も多く、これらの疾患の診断の基礎からより専門的医療まで研修できます。
資格取得者数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医１名、日本透析医学会透析専門医２名、日本内分泌代謝指導医１名、日本甲状腺学会専門医１名、日本脈管学会専門医１名、日本消化器病学会消化器専門医１名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医１名、日本消化管学会胃腸科専門医１名、日本腎臓学会腎臓専門医２名、日本救急医学会救急科専門医２名
外来・入院　患者数	外来患者 9,126 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 460 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾病群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	２次救急指定病院としての急性期医療だけでなく､超高齢社会に対応した地域に根差した医療、地域医療支援病院としての病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会関連施設（内科系） 日本救急医学会救急科専門医施設認定 日本心血管インターベンション治療学会施設認定

10. 地方独立行政法人那覇市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・那覇市立病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・法令に基づいた産業医と安全衛生委員会設置に加え、精神科医と健康管理担当職員を配置し、メンタルヘルスの体制を築いています。 ・H28 年度より年に 1 回全職員対象とするストレスチェックを行っています。 ・各種ハラスメントに適切に対処する相談窓口を各部署に配置しています。 ・女性医師が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。

	・敷地内に院内保育所があり、定員に空きがあれば利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 19 名在籍。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と事務担当者を配置します。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属するに全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研究支援センターが対応します。 ・特別連携施設（伊江村立診療所）の専門研修では、定期的に電話連絡やメールなどで那覇市立病院の指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・56 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・教育研究支援センター（治験管理）を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています。
指導責任者	氏名：　上原　圭太 【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院である那覇市立病院を基幹施設として、沖縄県南部医療圏・北部医療圏・宮古医療圏にある連携 5 施設（琉球大学病院、沖縄病院、沖縄赤十字病院、沖縄県立北部病院、沖縄県立宮古病院）・特別連携施設（伊江村立診療所）で内科専門研修を行います。那覇市立病院の「和と奉仕」という理念の下で地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるような内科専門医として育成を目指します。
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器病専門医 14 名・指導医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名・指導医 6 名 日本肝臓学会肝臓専門医・指導医 2 名 日本循環器学会認定循環器専門医 7 名 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名・指導医 2 名 日本透析医学会透析専門医 2 名 日本血液学会血液専門医・指導医 1 名 日本神経学会認定 神経内科専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 5 名　ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者数　47,457 名　・　延べ入院患者数　65,329 名

経験できる疾患群	・きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，56 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	◆日本内科学会認定医制度教育病院 ◆日本腎臓学会研修施設 ◆日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 ◆日本透析医学会専門医制度教育関連施設（琉球大学病院に係る） ◆日本呼吸器学会認定施設 ◆日本消化器病学会専門医制度認定施設 ◆日本消化器内視鏡学会指導施設 ◆日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ◆日本心血管インターベーション治療学会認定研修関連施設 ◆日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ◆日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 ◆日本リウマチ学会教育施設 ◆日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 ◆日本静脈経腸栄養学会 NST 専門医療法士認定教育施設 ◆日本臨床細胞学会教育研修施設 ◆日本病理学会病理研修認定施設(B) ◆日本臨床細胞学会認定施設 ◆日本東洋医学会研修施設 ◆日本精神神経学会精神科専門医研修施設 ◆日本がん治療認定医機構認定研修施設　など

11.社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課保健室）があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，当直室（ユニットバス付き）が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC、研修施設群合同カンファレンス、地域参加型カンファレンスは、基幹施設で開催するものに専攻医が参加できるように、時間的余裕を与えます. ・心臓リハビリテーションカンファレンスを月一回実施し、専攻医受講自由とし、心臓超音波に関する学習の機会を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、消化器科、血液、神経、アレルギー、膠原病を除く、総合内科、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】	日本内科学会、日本腎臓病学会、日本糖尿病学会、同地方会、沖縄県医師会医学会総会に年間で各々１演題以上の学会発表をしています.

4)学術活動の環境	
指導責任者	氏名：比嘉盛丈 【内科専攻医へのメッセージ】 豊見城中央病院は地域医療型の病院で、沖縄県内の協力病院特に友愛医療センターと連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に、内科系診療科が協力病院と連携して質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するのみならず、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供可能で、医学進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医１名、日本内科学会総合内科専門医５名、 日本循環器学会循環器専門医１名、日本糖尿病協会療養指導医１名 日本腎臓学会腎臓専門医２名、日本透析医学会透析専門医１名、 日本糖尿病学会指導医１名、日本糖尿病学会専門医２名 日本内分泌学会指導医１名、日本内分泌学会専門医２名、
外来・入院患者数	外来患者 7644 名（1 ヶ月平均） 入院患者 7956 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を経験することができます. 特に回復期リハビリ、心臓リハビリ、地域医療、訪問診療は他の基幹病院と比較して症例を豊富に経験できます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	他の基幹病院と違い、急性期医療のみならず、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などを多く経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

12. 聖マリアンナ医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。 ・聖マリアンナ医科大学病院の専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 105 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域および多職種参加型の９内科合同カンファレンスを定期的に参画し、common disease や様々な症例を学ぶ機会を設けています。 ・CPC を定期的に開催し､内科・病理との幅広いディスカッションに参加する機会が設けられています。 ・JMECC を主催しており、優先的に専攻医が受講することができます。 ・特別連携施設での研修では、電話やインターネットを使用して指導医が

	その施設での研修指導を行います。・JMECC を主催しており、優先的に専攻医が受講することができます。 ・特別連携施設での研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に症例を経験することができます。 ・70 疾患群のほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 20 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会又は同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	氏名：櫻田勉 【内科専攻医へのメッセージ】 東京と隣接した地域に位置する、地域密着型特定機能病院です。2022 年 12 月末に新病院が竣工しました。年間 6000 台以上の救急車の応需があり、三次急までの様々な救急疾患を経験することができます。
資格取得者数 （常勤医）	・日本内科学会内科指導医が 105 名常勤在中しています。 （総合診療内科 5 名、呼吸器内科 9 名、循環器内科 22 名、消化器内科 11 名、腎臓・高血圧内科 10 名、代謝・内分泌内科 6 名、脳神経内科 13 名、血液・腫瘍内科 8 名、リウマチ・膠原病・アレルギー内科 9 名、腫瘍内科 8 名、緩和ケア科 1 名、救急医学 1 名、感染症学 1 名、臨床検査医学 1 名）
外来・入院患者数	外来患者 578,989 名（内科外来患者延数）（2025 年度実績） 入院患者 315,723 名（内科入院患者延数）（2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関（画像診断・IVR 部門、核医学部門、放射線治療部門）、日本救急医学会救急科専門医・指導医指定施設、日本麻酔科学会日本病理学会病理専門医制度研修認定施設Ａ、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本核医学会専門医教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設（小児科/ 皮膚科/ ﾘｳﾏﾁ・膠原病・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科）、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本ﾘｳﾏﾁ学会教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本臨床薬理学会専門医制度研修施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本脈管学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定、日本感染症学会研

	修施設認定、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本老年精神医学会専門医制度認定施設、日本緩和医療学会 認定研修施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会認定研修施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証、日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設、日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設、日本脳神経血管内治療学会 研修施設、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本てんかん学会認定研修施設ほか

13. 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康対策室）があります. ハラスメント委員会が整備されています. 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. 敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 20 名在籍しています.（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（2024 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 6 回，感染対策 3 回） 研修施設群合同カンファレンス（2024 年度 1 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ＣＰＣを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（2024 年度実績 10 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（2024 年度実績 13 回）
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	氏名：糖尿病・内分泌内科部長　東　慶成
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名 日本内科学会総合内科専門医 30 名 日本消化器病学会消化器病専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名

	日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名
外来・入院患者数	外来患者 22,459 名（1 ヶ月平均実数） 入院患者 1,954 名（1 ヶ月平均実数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患，アレルギー，膠原病を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本感染症学会連携研修施設 胸部ステントグラフト実施施設、腹部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ･ケア学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本消化器学会専門医制度指定修練施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医修練施設 日本心血管インターベーション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

14. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ･ハラスメント委員会が当院内に整備されています.

	·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 73 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：2025 年度 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています．又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 181 演題)
指導責任者	氏名：石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 　倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.
資格取得者数 （非常勤を含む）	日本内科学会指導医 73 名、日本内科学会総合内科専門医 54 名、 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、

	日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 3 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数 271,235 人/年（2024 年度実績） 入院患者数 12,838 人/年（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　　など

15. 飯塚病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN、Wi-Fi）があります。 ・飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および看護師が常駐しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログ	・指導医は 40 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

ラムの環境	・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太 【内科専攻医へのメッセージ】 　飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と､6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
資格取得者数 （常勤医） 2026 年度実績	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名、日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数 2025 年度実績	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,853 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会 教育病院

（内科系）	日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設　　など

16. 済生会熊本病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康管理室）があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育園があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 45 名在籍しています。 ・当院にて研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と人材開発室を設置します。また、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：胸部 X 線を読み解く会、熊本消化器カンファレンス、熊本消化器画像診断研究会、済生会熊本病院緩和ケア研修会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための

	時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に人材開発室が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 9 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 50 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度：1 体、2024 年度：2 体、2025 年度：0 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究支援として、臨床研究センターがあり、図書室、オンライン図書なども整備しています。 ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	氏名：一門　和哉 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は熊本県熊本医療圏にあり、救命救急センターを有する急性期病院であり、国際病院機能評価 JCI を取得しています。 重症・救急患者はもちろん、コモンディジーズから複数の病態を持つ患者の診療など幅広く経験を積むことができます。併せて、様々なキャリアや資格を有する指導医が多数在籍しているため、サブスペシャルティ領域まで踏み込んだ専門的な知識・技術も修得することができます。 また、地域における急性期病院であるため、それぞれの役割を担う施設との病病連携や病診連携も多数経験します。 当院では、医師のみならず各職種が専門性を発揮しながら診療にあたります。内科系・外科系問わず各診療科の垣根も低く、複数の診療科、多職種にて行われるチーム医療は自慢できる特徴の一つです。
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 45 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、 日本消化器内視鏡学会 11 名、日本循環器学会循環器専門医 21 名、 日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本肝臓学会専門医 5 名、日本臨床腫瘍学会専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	総外来患者数（実数）： 138,858 名　　総入院患者数（実数）： 130,620 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設（CVIT） 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設

	日本専門医機構呼吸器内科領域専門研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腹膜透析医学会 CAPD 教育研修機関 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC） 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC）コア 日本感染症学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本緩和医療学会 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 JSPEN 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼動施設　など

17.東京都保健医療公社　多摩南部地域病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。UptoDate，その他文献検索の環境が整っています。 ･地方独立行政法人東京都立病院機構 任期付病院職員（非常勤）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･多摩南部地域病院では、セキュシュアル・ハラスメント相談窓口を設置しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･保育所利用に関して支援制度があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 13 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（委員長（副院長）、統括責任者・プログラム管理者（診療部長）（総合内科専門医かつ指導医）； にて、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2026 年度中に整備）を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。院内における e-ラーニングも活用します。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026 年度より開始予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。隔地の連携施設とはテレカンファレンスを開催します（指導医の相互訪問指導なども予定しています）。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（内科症例検討会、多摩南部地域病院特別講演会・講習会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（連携施設の多摩総合医療センター開催分に参加）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·特別連携施設（島しょ等診療所群）の専門研修では、電話や週 1 回の多摩南部地域病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 4 体，2025 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています．内科部長の本城聡は、内科学会地方会の座長を複数回経験しています。
指導責任者	本城　聡 【内科専攻医へのメッセージ】 多摩南部地域病院は、東京都南多摩医療圏の中心的な急性期病院であり、南多摩医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、 日本消化器病学会消化器専門医 3 名・同指導医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名・同指導医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名・同指導医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名・同指導医 1 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名・同指導医 2 名、 日本緩和医療学会認定医 2 名、 日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,900 名（1 ヶ月平均）　入院患者 734 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	多摩ニュータウン地区は全国的にも急激な高齢化が問題となっている地域です．急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本リウマチ学会教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

18.長崎大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します. 専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります. １）専攻医用の机，椅子 専攻医が個人で使用できる専用の机と椅子，ロッカーを用意しています．専攻医控室には，共用で使用できるインターネットに接続可能なパソコン，カルテ端末，コピー機，ファクシミリ，シュレッダー，冷蔵庫，電子レンジなどを設置しています. ２）インターネット環境 病院内のあらゆる場所で無線ＬＡＮが利用可能な環境を用意しています．インターネットを通じて，研修に必要な文献検索・手技動画サイトの「PUB MED」，「医中誌 Web」，「CareNet CME」，「今日の診療」，「メディカルオンライン」，「Up To Date」，「臨床手技データベース」「今日の臨床サポート」などが利用できます. ３）図書室 隣接の医学部キャンパスに附属図書館医学分館があります．また，外来・研究棟 10 階に病院共同図書室があり，24 時間利用可能です. ４）メンタルヘルス・ハラスメント相談 メンタルストレスやハラスメントに対処する部署として，院内にこころとからだの健康相談室を設置し，専任の臨床心理士が常駐しています. ５）メディカル・ワークライフバランスセンター 長崎大学病院で働く医療人および長崎県内の医療機関に勤務する医師が，ワークライフバランスを実現させ，働きがいをもって医療を提供できる環境の整備を整備するための部署を設置しています. ６）シミュレーションセンター 中央診療棟４階にあるシミュレーションセンターには，各種シミュレーターを設置しています．事前に申し込んでおけば，24 時間，365 日利用することができます. ７）女性専攻医への配慮 院内には女性医師専用の休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ８）院内保育所 病院隣接地に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	（１）臨床現場での学習 １）入院診療：内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty 上級医の指導の下，主担当医として入院症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態の把握，社会的背景への配慮・療養環境調整などを包括する全人的医療を実践します. ２）外来診療：内科外来（初診を含む）や Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を行い，原則週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます.

	３）救急・当直診療：内科当直や救急対応を通して，内科領域の救急診療，病棟急変対応などの経験を積みます． ４）カンファレンス・回診：定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科あるいは関連診療科合同カンファレンス・回診を通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高め，議論を通じて，担当以外の症例についても見識を深めます． ５）学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します．後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています． （２）臨床現場を離れた学習 ①内科領域の救急対応，②最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，③標準的な医療安全や感染対策に関する事項，④医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する事項などについて，以下の方法で研鑽します． １）症例検討会・ＣＰＣ：診断・治療困難例，臨床研究症例等について専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑・議論を行います．また，ＣＰＣでは，死亡・剖検例，難病・稀少症例の病理診断を検討します． ２）診療・手技セミナー：診療技術や治療，必要とされる知識に関する実践的なセミナーを受講し，研鑽を積みます． ３）抄読会・研究報告会：受持症例や最新の知見等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います．研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学び，リサーチマインドを磨きます． ４）JMECC ※ 内科専攻医は内科専門研修プログラム研修中に受講します． ５）医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する講習会 ※ 内科専攻医は年２回以上受講し，学習します． （３）自己学習 研修カリキュラムにある疾患について，内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します．また，日本内科学会雑誌の multiple choice question やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域における知識のアップデートの確認手段とします．
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	長崎大学病院には９つの内科系診療科（リウマチ・膠原病内科，内分泌・代謝内科，脳神経内科，呼吸器内科，腎臓内科，消化器内科，循環器内科，血液内科，総合感染症科）があり，幅広い内科研修が可能です．また，救急疾患は各診療科や救命救急センターによって管理されており，長崎大学病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています．これらの診療科での研修を通じて，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	症例の経験を深めるための学術活動における目標を設定し，自己研鑽を生涯にわたって行っていく能力を涵養します． １）内科系の学術集会や企画に年２回以上参加する ２）経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行う ３）クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う ４）内科学の発展に通じる基礎研究を行う 上記のうち，（２）～（４）は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を２件以上すること．

指導責任者	前村　浩二
指導医数（常勤医）	111 名（2024 年度実績）
外来・入院患者数	外来患者延べ数 113,456（人／年）　退院患者数 5,867 名（人／年） ※2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.一方でカリキュラムの知識,技術・技能を修得したと認められた専攻医は積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始することができます. .
経験できる地域医療・診療連携	地域の連携施設・特別連携施設による研修を組み合わせることによって，内科全般研修ならびに地域住民に密着した地域医療を学習します.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会教育認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

19.佐賀大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・ 臨床研修指定病院です。 ・ 施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されています ・ 適切な労務環境が保障されています ・ メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できます。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されています。 ・ 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 40 名以上在籍しています。 ・ 研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理 委員会と連携を図ることができます。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しています。 開催にあたっては専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会の学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	氏名：宮園　素明 【内科専攻医へのメッセージ】 自施設の「オール佐賀 内科専門研修プログラム」にてこれまでも多くの内科専門医を輩出してきた実績があります。 「オール佐賀 内科専門研修プログラム」でも充実した指導医・教育施設で generality と subspeciality の調和のとれたより良い内科専門医を育成を行っており、貴院の専門研修連携施設として実りのある研修を行えるよう努めて参ります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 42 名、日本内科学会総合内科専門医 51 名 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 14 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 12 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	内科系外来患者 14,088 名（1 ヶ月平均） 内科系入院患者 7,512 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	佐賀県医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的医療も経験します。
学会認定施設 (内科系)	日本肝臓学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本糖尿病学会認定教育施設　（Ⅰ） 日本内分泌学会認定教育施設 血液研修施設 成人白血病治療共同研究機構（JALSG）施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会研修施設 日本気管支学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 植込型補助人工心臓管理施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 左心耳閉塞システム実施施設 循環器専門研修施設 成人先天性心疾患専門医連携修練施設 日本胸部疾患学会認定制度認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

	日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本臨床薬理学会専門医制度研修施設 日本炎症性腸疾患学会 IBD 指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本神経学会専門医制度教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本認知症学会教育施設認 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本内科学会認定医制度認定大学病院 臨床修練指定病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

20.佐世保市総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・労働基準法や医療法を順守することを原則とし、佐世保市総合医療センターの就業環境に 基づき、就業する。 ・＜佐世保市総合医療センターの整備状況＞ ・図書室（図書スペース、自習スペース、インターネット環境等） ・佐世保市総合医療センター正職員医師として労務する。 ・安全衛生委員会およびそのカウンセリング、ハラスメント相談員の配置も行っている。 ・休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室の整備がなされている。 ・院内保育所（敷地内）の利用可能。（病児、病後児保育は対応不可） また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その 内容は佐世保市総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、 当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図る。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 18 名在籍。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、 専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を推奨し、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

3）診療経験の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修可能。 ・専門研修に必要な剖検を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っている。 ・倫理委員会が設置されている。 ・治験事務室が設置されている。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加、発表する機会がある。
指導責任者	氏名：波多 史朗 【内科専攻医へのメッセージ】 佐世保市総合医療センターは、「地域の基幹病院として、高度な医療を総合的に提供するとともに、明日を担う医療人を育成する」ことを病院の基本理念としています。 「救急医療」（三次救急を中心に最後の砦としての機能を担う）、「がん医療」（診断法の高度化とともに、手術療法、化学療法、放射線療法など治療法の多様化と総合化に取り組む）、「小児・周産期医療」（ハイリスク出産や重症新生児疾患を対象に診療体制の充実）、「高度専門医療」（当院の 31 診療科すべてにおいて、専門領域の高度性と先進性を追求）、「政策医療」（公共性を重んじ離島医療と感染症医療を担う）の 5 本柱で構成されています。 患者さんの“健康寿命”を延ばし、“Successful life”を送っていただけることを目指し、目の前の患者さんへ最善の医療が提供できるように、看護師・放射線科技師・臨床工学士・薬剤師・リハビリ・ソーシャルワーカーと協力し、スタッフ一丸となり日々診療にあたっています。5 年、10 年先の患者さんの“元気・健康”を考えられる医師を育てたいと考えています。是非、当院での研修で更に飛躍していただきたいと思います。
指導医数 （常勤医）	18 名
外来・入院 患者数	（2025 年度）外来 193,770 人 入院 13,019 人
経験できる疾患群	当院は県北医療を担う地域の基幹病院として、高度な医療を総合的に提供している。極めて稀な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験可能である。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、経験豊富な指導医の下、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、病診・病病連携、緩和医療、離島（宇久診療所など）の医療なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会関連施設 日本神経学会准教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 一次脳卒中センター(PSC)コア認定

21. 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 46 名在籍しています（下記） ·内科専門研修連携施設研修管理委員会にて、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回、2025 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能です。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度 2 体、2025 年度 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 7 演題、2025 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	氏名：大内　佐智子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり,、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。 当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます. 救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。 すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会内科専門医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 38 名、日本内科学会認定内科医 42 名、日本循環器学会循

	環器専門医 17 名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 9 名・指導医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名・指導医 6 名、日本肝臓学会専門医 5 名・指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名・指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本緩和医療学会専門医 1 名・指導医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	内科系診療科外来患者　12,363 名(2025 年度 1 ヶ月平均)、 内科系診療科入院患者 9,140 名（2025 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定基幹施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、日本核医学学会専門医教育病院、心エコー図専門医制度研修施設、日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会卵円孔開存閉鎖術実施施設、日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設、ペースメーカ移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、両心室ペースメーカ移植術認定施設、両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）認定施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC)コア施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本炎症性腸疾患学会指導施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本血液学会専門研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本緩和医療学会基幹施設、ほか

22.公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、 Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE)、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。

	・公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内には職員食堂があり、宿日直時は食事補助があります。（昼食・夜食：弁当支給、朝食：院内のコーヒーショップの食券を配布） ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、当直室を整備しています。 ・院内保育所があり、病児保育も利用可能です。院内保育所利用者に限り自動車通勤が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は１３名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 　北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医/内科系）	内科指導医１３名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器病専門医４名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医４名、日本循環器学会循環器専門医７名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医４名、日本透析医学会専門医４名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医３名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学

	会がん薬物療法専門医３名など
外来・入院患者数	外来：1,641.8 名（全科 1 日平均：2025 年度実績） 入院：200,616 名（全科 2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

23.熊本大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･熊本大学病院医員(内科専攻医)として労務環境が保障されています. ･医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織として医療の質センターがあります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（保健センター、メンタルヘルス相談窓口）があります. ･ハラスメント委員会が熊本大学に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 83 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理１回，医療安全２回，感染対策２回）し，専攻医に受講を義務付け，

	そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2025 年度実績 0 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 3 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　5 演題）をしています.
指導責任者	泉家康宏 【内科専攻医へのメッセージ】 熊本大学病院は，熊本県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて幅広い活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が基幹施設と連携して，質の高い内科医を育成するものです．当院内科系診療科では単に内科医を養成するだけでなく，患者背景を含めた広い視点に立って問題点を見極め，医療安全を重視し，きめ細やかな診療を実践できる医師を育成することを第一の目的とし，数多く展開している臨床研究や基礎研究に接することを通じて、医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを第二の目的としています.
指導医数 （常勤医/内科系）	日本内科学会指導医 83 名，日本内科学会総合内科専門医 70 名 日本消化器病学会消化器専門医 25 名，日本循環器学会循環器専門医 23 名，日本内分泌学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 14 名， 日本腎臓病学会専門医 16 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名， 日本血液学会血液専門医 17 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名， 日本感染症学会専門医 4 名，日本臨床腫瘍学会専門医（内科）2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 118,655 名（2025 年）　入院患者 85,639 名（2025 年）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門研修基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化管学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 植え込み型除細動器・心臓再同期療法植え込み認定施設 日本老年医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院 など

24.ベルランド総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度による基幹型研修指定病院。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境の整備。 ・メンタルストレスに適切に対処するチームがあります。 ・ハラスメント委員会（労働安全衛生委員会）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に隣接した提携保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（院長補佐/診療部長）（ともに指導医））を設置して、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度：安全 13 回、感染 13 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 0 回、2023 年度実績 4 回、2024 年度実績 4 回、2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に管理部事務局が対応します。

認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 1 体、2023 年度 7 体、2024 年度 4 体、2025 年度 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究担当者を配置し、定期的に臨床研究審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	安 辰一 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、大阪府堺市医療圏の中心的な急性期病院であります。当院の内科専門研修は当院を中心に大学病院（大阪公立大学医学部附属病院、奈良県立医科大学部附属病院、東北医科薬科大学病院、岩手医科大学附属病院、岐阜大学医学部附属病院、近畿大学奈良病院、和歌山県立医科大学附属病院）ならびに同系法人である泉大津急性期メディカルセンターと地域基幹病院である、社会医療法人三栄会 ツカザキ病院、医療法人社団倫生会 みどり病院、医療法人藤井会 香芝生喜病院、社会医療法人友愛会 友愛医療センターの連携で行います。専攻医には主担当医として入院から退院、場合によっては退院後のフォローを含め。診断治療を行います。当院の特徴として、市中病院である最大の利点である①豊富な症例、そして②各科間の垣根の低さがあります。各科には十分な指導医・専門医がいることより、内科全般の研修はもとよりその後 Sub Specialty 研修をも見据えた研修が行えます。
指導医数 （常勤医/内科系）	・日本内科学会 指導医 4 名、 ・日本内科学会総合内科 専門医 10 名、 ・日本消化器病学会消化器 専門医 12 名、 ・日本消化器内視鏡学会 指導医・専門医 1 名 ・日本循環器学会循環器 専門医 12 名、 ・日本糖尿病学会 専門医 4 名、 ・日本呼吸器学会呼吸器 専門医 3 名、 ・日本呼吸器内視鏡学会 指導医・専門医 3 名 ・日本神経学会神経内科 専門医 4 名、 ・日本救急医学会救急科 指導医・専門医 5 名 ・日本胆道学会 指導医 1 名 ・日本肝臓学会 指導医・専門医 4 名 ・日本膵臓学会 指導医 1 名 ・日本心血管インターベンション治療学会 指導医・専門医 1 名 ・日本臨床腫瘍学会 指導医 1 名 ・がん薬物療法 専門医 1 名 ・日本不整脈心電学会 専門医 2 名 ・日本超音波医学会 指導医・専門医 1 名 ・日本緩和医療学会 指導医・専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 7,456 名（1 ヶ月平均） 入院患者 484 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例

能	に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会/日本専門医機構 内科領域専門研修プログラム認定 ・日本循環器学会認定専門医研修施設 ・日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会 潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本不整脈心電学会 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術(クライオバルーン)実施施設 ・日本不整脈心電学会 経皮的カテーテル心筋焼灼術(レーザーバルーン(HeartLight))実施施設 ・日本不整脈心電学会 パルスフィールドアブレーション実施施設 ・日本不整脈心電学会 パワードシースによる経静脈的リード抜去術実施施設 ・経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 ・補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ・日本神経学会教育施設 ・日本認知症学会教育施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本病理学会研修認定施設 ・日本ステントグラフト実施施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設

3）専門研修特別連携施設

1．公益社団法人 地域医療振興協会 公立久米島病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・後期研修医研修施設です ・院内では研修に必要なインターネット環境があります ・メンタルストレスに適切に処理する産業医がいます ・ハラスメント委員会が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等が配慮されています ・職員宿舎を（家具・家電・寝具付）利用できます．ひと月の家賃は 1 万円程度となります ・保育所については久米島町が取りまとめを行っており、待機もあるため、利用について実情は厳しいかもしれません
認定基準	・指導医は 1 名在籍しています。

【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置予定であり、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全委員会、感染対策委員会、褥瘡委員会などが主催する勉強会、講習会などに、専攻医の出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設である友愛医療センターで行われるＣＰＣの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち総合内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています. ・その他、糖尿病外来、腎臓内科、神経内科、循環器内科などの専門外来を設置しており研修可能です. ・救急は島内唯一の病院であるため、年齢、性別、疾患の種類を問わず、あらゆる症例の診療を経験できます.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要なインターネット、図書の環境が整備されています。 ・倫理委員会を設置し、適宜開催しています。 ・研修期間中に開催される学会や、研究会での発表を予定します
指導責任者	氏名：並木宏文 【内科専攻医へのメッセージ】 公立久米島病院は、那覇空港から飛行機で３０分、沖縄県那覇市の西約１００ｋｍに位置する離島久米島に所在しております．人口約７０００人の久米島は、「日本の渚百選」に選ばれたイーフビーチなど美しい海岸とサンゴ礁に囲まれ豊かな自然に恵まれています。 平成１２年４月の開院当初は、沖縄県と久米島町で構成する「沖縄県離島医療組合」で運営してきましたが、平成２４年４月より公益社団法人地域医療振興協会が指定管理を受け運営しております。 沖縄の離島医療で総合診療系医師が中心となり“チーム医療”を実践している施設です。急性期～慢性期の在宅・外来・入院医療、人工透析、予防医療、等の“今とこれから、必要とされる対応の全て”を求められます。 島民や来島される方々の生命を守るのはもちろんのこと、久米島町とともに島民の福祉・健康のためのプロジェクトを推進し、離島医療・健康づくりのモデルとなることを目指し取り組んでおります。 救急医療については、３６５日２４時間体制を維持しており、必要な場合は入院治療を行います．また、当院で対応できない急性期患者さんについては、日中の時間帯はドクターヘリ、夜間帯においては自衛隊ヘリで沖縄本島に移送するなど離島の多彩な医療を実践しております。 そのほか、後期研修医地域研修受入れ施設として年間を通して研修の受入れを行っており、離島の救急医療や総合診療科及び福祉の実情を学べる施設となっております。
指導医数 （常勤医）	日本医師会認定産業医１名、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医１名
外来・入院患者数	外来患者　170 名（1 日平均）　入院患者　23 名（1 日平均）
経験できる疾患群	・極めて稀、稀な疾患を除き、研修手帳にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験可
経験できる技術・技能	・内科専門医に必要な技術、技能を島内唯一の病院という枠組みの中で経験していただきます. ・健診、検診後の精査、地域の内科外来としての日常診療、必要時入院診

	療へつなぐ流れ. ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、家族本人のみならず、家族とのコミュニケーションのあり方､かかりつけ医としての診療のあり方.
経験できる地域医療・診療連携	・入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療、療養が必要な入院患者の診療、多職種及び家族とともに今後の療養方針、療養の場の決定と、その実施に向けた調整. ・在宅へ復帰する患者については、地域の病院としての外来診療と訪問診療、往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアーマネジャーによるケアマネジメントと医療との連携について. ・島内にある特別養護老人ホーム２施設の訪問診療や往診. ・当院で対応不可能な急性疾患に関しての、沖縄本島の病院との診療連携とドクターヘリや自衛隊ヘリでの搬送の手配など.
学会認定施設（内科系）	学会認定なし

2. 豊見城中央病院附属健康管理センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する産業医がいます。 ・ハラスメント相談窓口があります。 ・女性医師が安心して勤務できるように勤務環境に配慮しています。 ・法人内に保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています（下記参照） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会など友愛医療センターに準じて専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行われる CPC 受講及び地域型カンファレンスの受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち消化器、内分泌、代謝分野で可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	研修期間中に開催される学会や研究会での年間計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	氏名：高良正樹 【内科専攻医へのメッセージ】 豊見城中央病院附属健康管理センターは、友愛医療センターと連携して人材育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行なっております。 予防医療を担う当センターは男女別フロアで女性が受診し易い環境のもと、沖縄県民はもとより日本各地や海外から訪れる方々のより一層の健康増進と早期発見・早期治療に取組んでおります。
資格取得者数（常勤医）	人間ドック学会人間ドック認定医･人間ドック健診専門医･人間ドック健診指導医､内科学会認定内科医･総合内科専門医､循環器学会認定循環器専門医､消化器病学会認定消化器病専門医･指導医､消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医･指導医､消化器がん検診認定医､呼吸器学会呼吸器専門医･指導医､産科婦人科学会産婦人科専門医､糖尿病学会専門医･研修指導医､肝臓学会認定肝臓専門医･腎臓専門医､内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医､脳神経外科学会専門医､禁煙学会禁煙専門医､日本医師会認定産業医認定･健康スポーツ医

外来・入院患者数	外来患者：103 名（1 ヶ月平均延数）健診受診者：2,405 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修医に必要なプライマリーヘルスケアの研修が出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することが出来ます
経験できる地域医療・診療連携	豊見城中央病院と連携して地域に根ざした医療及び地域への健康講話を行なっております。 又、生活習慣病(脂質異状等)の診断・経過観察及び内視鏡検査の技術向上が出来ます。
学会認定施設 （内科系）	人間ドック健診施設機能評価認定 人間ドック健診専門医研修施設認定 全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診指定医療機関

友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 5 月現在）

友愛医療センター
佐藤陽子　（プログラム統括責任者、呼吸器内科分野）
照喜名重朋　（研修委員長、腎臓内科分野）
池原泰彦　（総合内科分野）
大庭景介　（循環器内科分野）
西平守邦　（腎臓内科分野）
上地英司　（リウマチ・膠原病科分野）
眞境名豊文　（内分泌・代謝内科分野）
知念健司　（消化器内科分野）
喜久村祐　（腎臓内科分野）
平良翔吾　（臨床研修管理副委員長・腎臓内科分野）
前花貴大　（チーフレジデント　循環器内科分野）
知念重希　（チーフレジデント　呼吸器内科分野）

連携施設担当委員
佐藤直行（ハートライフ病院）
藤原善寿（国立病院機構沖縄病院）
山内昌喜（沖縄協同病院）
伊志嶺朝彦（中頭病院）
仲村健太郎（浦添総合病院）
崎間洋邦（琉球大学病院）
高橋　隆（大浜第一病院）
永田恵蔵（沖縄県立北部病院）
並木宏文（公立久米島病院）
山中裕介（沖縄県立宮古病院）
上原圭太（那覇市立病院）
比嘉盛丈（豊見城中央病院）
高良正樹（豊見城中央病院附属健康管理センター）
出雲昌樹（聖マリアンナ医科大学病院）
東　慶成（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）
石田　直（倉敷中央病院）
小田浩之（飯塚病院）
一門和哉（済生会熊本病院）
本城　聡（多摩南部地域病院）
前村浩二（長崎大学病院）
宮園素明（佐賀大学医学部附属病院）
波多史朗（佐世保市総合医療センター）
大内佐智子（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）
北野俊行（北野病院）
泉家康宏（熊本大学病院）
安　辰一（ベルランド総合病院）

オブザーバー
内科専攻医代表　（院内専攻医 2 名程度予定）

友愛医療センター内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

①地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域で常に患者と接する開業医を想定しています．日常診療はもちろん、予防医学、チーム医療、病診連携を含めた良質な医療提供が出来ることを実施します.

②内科系救急医療の専門医：内科系救急当直業務を通して適切な救急疾患のトリアージと初期対応、また、集中診療科にも所属し、内科系救急疾患を外来から入院診療までを実施します.

③病院での総合内科（Generality）の専門医：内科専門医として当然対応すべき common disease を入院のみならず外来においても診療する環境を提供し実践します.

④総合内科的視点を持った subspecialist：常に generality の素養を持ちながら、地域中核病院に求められる subspecialist としての診療を実践します.

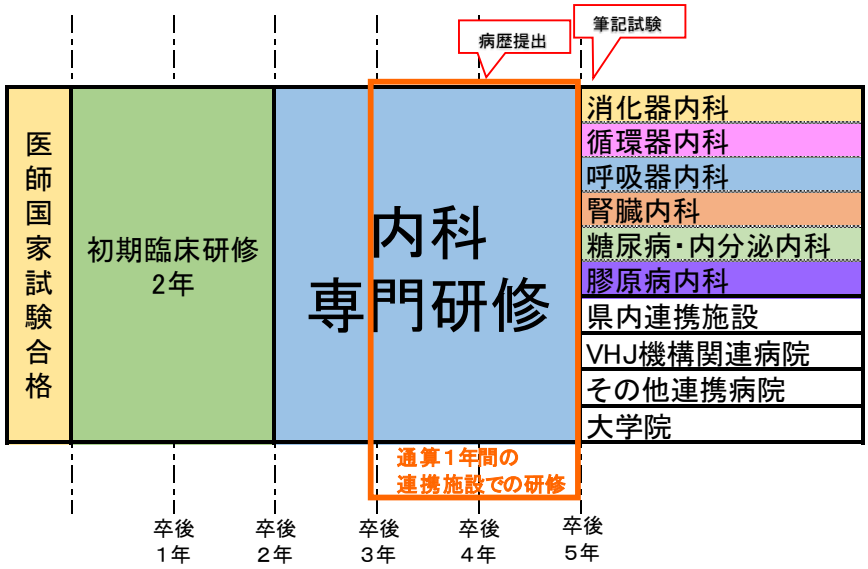
内科専門医は、それぞれのキャリア形成やライフステージ, あるいは医療環境によって, 求められるのは単一ではありません．したがいまして、当院のプログラムにおいては、その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医の育成を想定しています

研修修了後には、subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療の研修を当院においてはもちろん、当院が所属している県内連携施設（群星沖縄連携施設、琉球大学病院）や VHJ 機構関連施設、その他各診療科が連携している病院での出向研修も可能です．大学院などでの研究を開始する準備を整えうるために当院の臨床研究支援室の支援を受けることも出来ます

2）専門研修の期間

基幹施設である友愛医療センターで 1 年以上、連携施設・特別連携施設で 1 年以上の合計 3 年間の専門研修を行います。

図１友愛医療センター内科専門研修プログラム（概念図）



3）研修施設群の各施設名（**P20**「友愛医療センター研修施設群」参照）

基幹施設：　社会医療法人友愛会 友愛医療センター

連携施設：　沖縄県立北部病院
独立行政法人国立病院機構沖縄病院
社会医療法人友愛会 豊見城中央病院
沖縄県立宮古病院
佐世保市総合医療センター
社会医療法人仁愛会 浦添総合病院
社会医療法人敬愛会 中頭病院
社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
琉球大学病院
沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
大浜第一病院
那覇市立病院
聖マリアンナ医科大学病院
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
倉敷中央病院
飯塚病院
済生会熊本病院
多摩南部地域病院
長崎大学病院
佐賀大学医学部附属病院

兵庫県立はりま姫路総合医療センター
北野病院
熊本大学病院
ベルランド総合病院
特別連携施設：公益社団法人 地域医療振興協会 公立久米島病院
豊見城中央病院附属健康管理センター

4）プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名
・友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.69「友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

5）各施設での研修内容と期間
専攻医の希望（採用時に確認）に応じて 2 つのコース、①総合内科基本コース、②サブスペシャルティ重点コースを設けています.
①総合内科基本コースは、3 年間で、広く内科全般をローテーション研修で実力をつけ、新内科専門医を取得することを目標とする．まだサブスペシャルティが定まってない場合に推奨．友愛医療センターと連携施設、地域医療をローテーションして内科 13 領域を経験する.

②サブスペシャルティ重点コースは、将来のサブスペシャリティが決定している専攻医に勧めます．内科専門医必要症例を満たしながら、希望するサブスペシャリティを重点的に研修する.

専攻医 1 年目もしくは 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目もしくは 3 年目の研修施設を調整し決定します病歴提出を終える専門研修（専攻医）2 年目もしくは 3 年目の 1 年間に当院で経験しづらい血液疾患、神経疾患、地域医療について学ぶために連携施設，特別連携施設で研修をします（図 1）

6）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数
基幹施設である友愛医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します友愛医療センターは地域基幹病院であり、全ての疾患群を十分網羅することが出来ます．専門医の常勤がいない血液疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ますし、血液内科非常勤専門医の指導を受けることが可能です．不十分な症例については連携施設で経験することが出来ます．神経内科医の常勤医はいませんが、救急病院ですので脳血管障害は十分経験することが出来ますし、外来診療の神経内科非常勤専門医の指導を受けること

が可能です．また、連携施設である国立沖縄病院にて変性神経疾患の診療を経験することも出来ます．

＊研修施設群では、13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（**P.20**「友愛医療センター内科専門研修施設群」参照）

友愛医療センター概要　（2024 年度）

開設	昭和 55 年　4 月
病床数	一般病床 388 床 （ICU 14 床・人工透析 27 床・HCU 15 床）
患者数	一日平均外来患者数 650 名 一日平均入院患者数 346 名 平均在院日数　10 日
救急外来患者数	14,747 件（一日平均 約 40.4 名）
救急車搬送	5,287 件（一日平均 14.4 件）
手術件数	6,517 件（全麻 4,632 件）
職員数	1,348 名（2026 年 4 月現在）

友愛医療センター 内科 診療科実績（2024 年度）

友愛医療センター	入院患者 実数（人/年）	外来患者 （延人数/年）
消化器内科	1,014	17,636
循環器内科	1,227	13,348
糖尿病・内分泌内科	50	3,806
腎臓内科	282	8,831
呼吸器内科	743	6,104
リウマチ膠原病科	68	5,694
神経･血液･感染症	232	0
救急科	1,318	14,747

・神経内科、血液内科、感染症、以外の領域では複数名の専門医が常勤しています．
・血液疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ますし、非常勤の血液内科専門医の指導を受けられます．膠原病内科関連の血液障害（TTP 等）や敗血症性

DIC は経験します．血液内科のある連携施設での研修も組まれています．

・神経内科疾患は、救急病院であるので急性期脳血管障害は十分な症例を経験することが可能です．非常勤の神経内科専門医の指導を受けることも可能です．また、神経専門病院である連携施設での研修も組まれています．

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

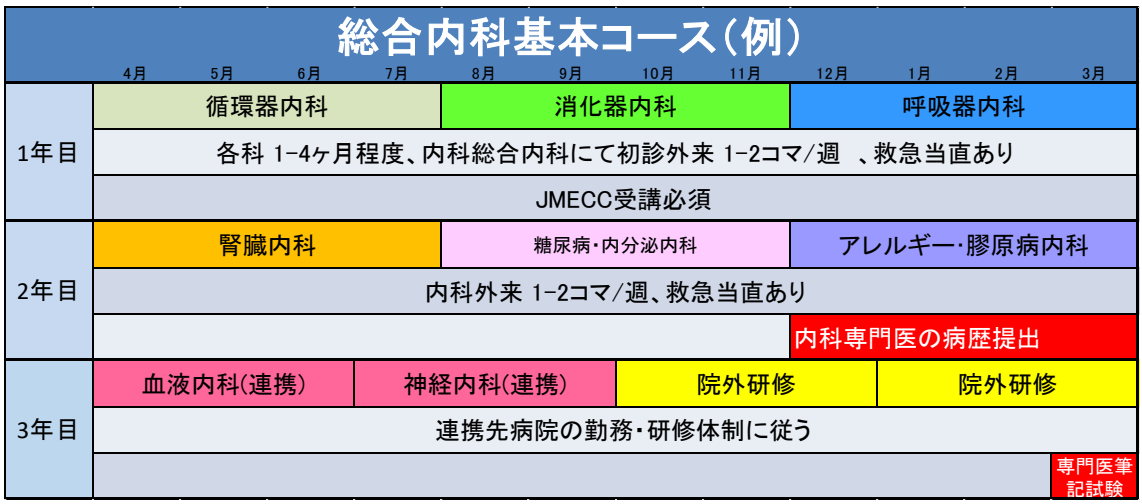
Subspecialty 領域に所属しながら該当科の入院患者の診療と共に，general 疾患としての感染症（肺炎、尿路感染症、敗血症）や脳血管障害の入院患者を順次主担当医として担当します主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括するチーム医療、全人的医療を実践します

入院患者担当の目安（基幹施設：友愛医療センターでの一例）

当該月にローテーション科における入院患者を主担当医として受持ちます．

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます．神経内科、血液内科、感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます．ローテーション研修は総合内科基本コースと専門科重点コースのいずれかを選択します．以下にそのローテーション例を示します．

① 総合内科基本コースのローテーション研修の例



1 年目と 2 年目もしく 3 年目の 2 ヵ年の間に 1～4 ヶ月間毎に内科の各領域の subspecialiy の入院した患者を主担当医として診療にあたります．これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します．

② 専門科重点コースのローテーション研修

消化器内科の専門研修を志望の場合

<table>
<tr><th colspan="13">専門科重点コース （消化器重点コース例）</th></tr>
<tr><th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1年目</td><td colspan="4">消化器内科</td><td colspan="2">循環器内科</td><td colspan="2">呼吸器内科</td><td colspan="2">腎臓内科</td><td colspan="2">糖尿病・
内分泌内科</td></tr>
<tr><td colspan="12">専門希望科を当初 4ヶ月研修、以後各科 2-3ヶ月程度、
内科総合内科初診外来 1-2コマ/週 、救急当直あり</td></tr>
<tr><td colspan="12">JMECC受講必須</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年目</td><td colspan="3">アレルギー・膠原病</td><td colspan="2">救急</td><td colspan="3">血液(連携)</td><td colspan="3">神内(連携)</td><td colspan="2">院外研修</td></tr>
<tr><td colspan="5">内科外来 1-2コマ/週、救急当直あり</td><td colspan="7">連携先病院の勤務・研修体制に従う</td></tr>
<tr><td colspan="7"></td><td colspan="5">内科専門医の病歴提出</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3年目</td><td colspan="5">院外研修</td><td colspan="7">消化器内科</td></tr>
<tr><td colspan="5">連携先病院の勤務・研修体制に従う</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

志望する専門分野を重点的に研修するコースです．１年目に志望する専門分野を４ヶ月研修し、総合内科基本コース同様に２年目もしくは３年目の２ヵ年の間に２～３ヶ月毎に内科の各領域の subspeciality の入院患者を主担当医として診療にあたります．

③ その他、専攻医の希望・将来像，研修達成度により自由度の高い研修ローテーションも相談の上考慮します．

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

年間２回、自己評価と指導医評価，ならびにメディカルスタッフによる 360 度評価を行います必要に応じて臨時に行うことがあります

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします 2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします

9）プログラム修了の基準

①J-OSLER．を用いて，以下の ｉ)～vi)の修了要件を満たすこと

ｉ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上を経験することを目標としますその研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録します（**P.82** 内科専門研修　修了要件「疾患群」、「症例数」、「病歴要約」一覧表　参照）

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で２件以上あります
iv）JMECC 受講歴が１回あります
v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります
vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます
②当該専攻医が上記修了要件を充足していることを友愛医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に友愛医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います
〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 1 年以上＋連携・特別連携施設 1 年以上）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長することがあります

10）専門医申請にむけての手順
①必要な書類
i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
ii）履歴書
iii）友愛医療センター内科専門医研修プログラム修了証（コピー）
②提出方法
内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します
③内科専門医試験
内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります

11）プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇
在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（**P20**「友愛医療センター内科専門研修施設群」参照）

12）プログラムの特色
①本プログラムは，沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院である友愛医療センターを基幹施設として，沖縄県南部医療圏，近隣医療圏および本島北部や離島にある連携施設・特別連携施設で内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます研修期間は原則、基幹施設１年以上＋連携施設・特別連携施設１以上の合計３年間です
②友愛医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけ

ではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を経験しますそして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします

③基幹施設である友愛医療センターは，沖縄県南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます

④ 基幹施設である友愛医療センターでの 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できますそして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（**P.82** 内科専門研修　修了要件「疾患群」、「症例数」、「病歴要約」一覧表　参照）

⑤友愛医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目もしくは 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します

⑥基幹施設である友愛医療センターと専門研修施設群で，「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（**P.82** 内科専門研修　修了要件「疾患群」、「症例数」、「病歴要約」一覧表　参照）少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を主担当医として経験し，J-OSLER に登録します

⑦複数の学位取得者の指導医と共に臨床研究支援センター専従の医師と事務職の支援で国内外の学会発表や論文作成も行うことができ、リサーチマインドを持った臨床医の育成に力を注ぎます.

学会発表：国内 33 件、海外 3 件（2024 年度実績）

論文：国内 1 件、海外 0 件（2025 年度実績）

⑧先進医療として再生医療を行っていることから、直に最先端の医療を経験することができます.

⑨看護師、コメディカルの医療レベルが高く、チーム医療を経験することができます.

2024 年 4 月現在　認定看護師：14 名

⑩各種チーム活動（Rapid response team, Respiratory support team, Nutritional support team, Infection control team, 緩和ケアチーム）にも参加し、組織横断的なチーム医療におけるマネージメントを実践し学ぶこともできます.

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します

カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います逆評価は毎年２回行いますその集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，友愛医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします

16）その他

特になし

友愛医療センター内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1）専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医（メンター）に対して専攻医 1～3 人が友愛医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
- 担当指導医は，専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- 担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を経験できるよう可能な範囲で，主担当医の割り振りを調整します.
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2）専門研修の期間

- 年次到達目標は，**P.82** 別表 1「内科専門研修　修了要件「疾患群」、「症例数」、「病歴要約」一覧表」に示すとおりです.
- 担当指導医は，診療部支援課と協働して，Subspecialty 診療科研修ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 担当指導医は，診療部支援課と協働して，病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 担当指導医は，診療部支援課と協働して，プログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 担当指導医は，診療部支援課と協働して，年２回、自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3）専門研修の期間

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います.
- 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
- 主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4）J-OSLER の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
- 担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
- 専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と診療部支援課はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
- 担当指導医は, J-OSLER を用いて研修内容を評価し, 修了要件を満たしているかを判断します.

5）逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，友愛医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6）指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて臨時で，J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に友愛医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7）プログラムならびに各施設における指導医の待遇

友愛医療センター給与規定によります.

8）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.

指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

9）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し，形成的に指導します.

10）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11）その他　特になし.

別表１　内科専門研修　修了要件「疾患群」、「症例数」、「病歴要約」一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件 以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ①総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2 例提出する。
   ②消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60 症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

別表 2 友愛医療センター　内科専門研修　週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td>7:30
8:30</td><td>心電図勉強会
（循環器）</td><td>内科
Grand round</td><td>・ERカンファレンス</td><td>・内科症例検討会
・勉強会（ICU）</td><td>・カンファレンス
（消化器）
・勉強会（糖尿病）
・勉強会（腎臓）
・勉強会（循環器）</td><td>・CPC
・勉強会（ICU）</td><td rowspan="3">担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>午前</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療
勉強会（消化器）</td></tr>
<tr><td>午後</td><td>勉強会（膠原病）
外来診療/
入院患者診療</td><td>カンファレンス
（腎臓）
外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>外来診療/
入院患者診療</td><td>抄読会（呼吸器）
外来診療/
入院患者診療</td><td>担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など</td></tr>
</table>

- 友愛医療センター　内科専門研修プログラム　４．専門知識・専門技能の習得計画　に従い、内科専門研修を実践します.
- 上記はあくまでも概略です.
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます.
- 入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます.
- 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します.
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します.